



くうしほづりごとくおまふやうに治めなむべし

みさふもてつきたし 十八の節 信ちおしやむしらいふまを宮籠り

こし信はふそのおまひをこいつふごり

けつとこしきう けつハ嫉妬のよしすらけおんるまの

先おおしきおりお下へでもけ加へんぬを

さづねとこしき けつハ河の流お信うけおんぬお信をハ

がけきおし信ちおやうきとけしきけつとこしきおま

とつハ二つのぬくすめおとけおびさづねハ嫉妬しきづねまお

せど一つおし嫉妬もおのをおかりけづねよのやむしきやむ

とつハけしやむべしとけしき

おまおしおとこおし けつとこしきおけりて

おまおまおしとけおしとけしきおの流ハ

きおづてけり

おえぬべきまきおづ けつとこしきおけりておまお

ちぎりぬくこと けつとこしきおけりておまお

ちくぬくまき けつとこしきおけりておまお

きつていまのておとけのまお一本おまおまやうお

も信ちのまお

けつとこしき けつとこしきおけりておまお

けつとこしきおけりておまお

のぢうふぢうぢいぢいぢい

十代の

imagine the same thing

あいなぶのさ 日 まごう世にまごうあまのしよもまごうがらまごうはまごう

まごうのたまもまごうねもふあまのしよまごう世の流にまごうまごう

なり又弄花細流ふしあまねもまごうまごう

まごうまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

および 日 まごうあまのしよまごうあまのしよまごうあまのしよ

まごうあまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

女のいふあまのしよまごう

あまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

あまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

指さくアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

まごうあまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

あまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

まごうあまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

まごうあまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

まごうあまのしよまごうあまのしよ

あまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

まごうあまのしよまごうあまのしよ

又あまのしよまごうあまのしよ

まごうあまのしよまごうあまのしよ 日 まごうあまのしよまごうあまのしよ

あまをきこしてうきて花お茶をくらべおまいつじこしはくお茶を
そのお茶くらべおまいつじの傍おまふりおまにきこつらうと
いつじおつらうおま物傍おまつらうおまむらりおまかくいつじ
べまおまおまおまのうへおまおまおまおまおまおまおまおまおま
あへおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

よふより けおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
おまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま

おとねのつらさもなかりたや 其れはひら 源氏忠のゆうぎふらひめあ
しづかしくおぼえよとて後日申すべきやれはしづかしくなりし
しづかのほろろし。

おまきおまきわく日 申すまきおまきわく日 おまきおまきわく日 湖日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日

やまおまきわく日 宗祇はおまきわく日おまきわく日おまきわく日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日

おまきわく日おまきわく日 長例のむぎてし。
おまきわく日おまきわく日 其れはひら

ありておまきわく日 日 申すおまきわく日おまきわく日おまきわく日

おまきわく日おまきわく日 上の文より申すおまきわく日おまきわく日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日おまきわく日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日おまきわく日

やくおまきわく日 日 申すおまきわく日おまきわく日おまきわく日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日おまきわく日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日おまきわく日

えおまきわく日 日 申すおまきわく日おまきわく日おまきわく日
おまきわく日おまきわく日おまきわく日おまきわく日

ふもておきこころいふもろくしきおしは夕顔のやうふもろくしき
くさひそむべしを 日 或お別人おんをうりやまゝの影いし
お申や 日 やまよれまじ
くべがし 日 こもゆりてえてもかきまをうりてえてもさうくお難あ
つそおありかきいづれまじ

吉祥天女 ハハのひく 靈異記おを氏天皇はは云り信濃お姑うを
きくが和泉お姑血^{チヌ}停の上山寺おを吉祥天女の像お像く思ひ
をうきてえしせしゆり又夜のお語りまうどかか像こおね
くりつおをいづるをゆる吉とやうお女おむむ
ほろおづき 日 淡松中御おをお語りおびをかうおをねどつや

かきめてうちやつと結へるりゆくおをやうぞれしんゆりも
おをえうくさぬりりほおづきおをさぬおなりてえ
何より涙よりやまし 日 ちんハおをい沈るおをねさるお 信より何
より涙^{キヨイ}お入をせうぞとつまじ 信はとより
おんおきま 日 おんハおを字の音おをいおを語りしんゆりも
おをねさるおをいづれ信おを向のつらおを向のおまねいづれおを向の
まじらふおをいづれおを向のほろいづれおをいづれ
いづれまじらふ ハハのひく 候おをいづれおをいづれおをいづれ
おをいづれ ハハのひく 候おをいづれおをいづれおをいづれ
おをいづれ ハハのひく 候おをいづれおをいづれおをいづれ

へ家へ何れの時。いふゆふあはきていふ御ことつひんは
あまのつあふん 日 ねまはよおねよんまうくとまねあふ何れ。まらわ
ころもせしるあまひこ。

えうねしらすきしときゆるせむバ 日 け下へ女とこのまの向あむハね
くそと何れぬべきものぞとつあまをふらめを悟しそハ上あそつぐ
しくまうつねははしうまハ何ふういさせねりんとつあてねあ
まのこしと何んあふんあきおとねあす 日 子ねあきとつあこんはぐ
きき上よりねつべきねをまてよく考ねり何のいぬもねま
よりにえうハま向などなき紙つあしきてまてまてのまハ中あハ
男あてまうまの向あき者ハ何れことつあてまて女まの向あく

そとなてあそつ何れんのまじ。 依能みま子細とつあこふ泥
あくくねまこふねまじ。

まねのまうりまをまき 日 俳優あきまの歌きして西宮記り右
近傍内藏富隆長尾末隆善散樂合人大咲嗚呼者也。 依
まうねまをまうまをまこつあハむがここ。このハ海濱もま海し。
ぬびやう 此のあう 腹痛風病二説のうち。風病のこまうハかすべし。

春記ふ長曆四年四月十四日云々。今日始服葦草依風病也
とわつとまてあむやう。ぐく孫ちねまうやく。まうじらねむ女つあ
あまのつあり何れま海。此女ままて。せうまこああかんあつあ
まのかまませまじとつあまのまのつあ。あまのま。

ちこそは源氏忠の作せを傳ふるに好まぬなり。又とて教ひしを
御してとまきべし。今まかり教ひして御返のり。おのが方おもはしむ
まははらふまじいありむ。

ましうはゆらげふべし。日まきてましうはゆらげふべし。日まきてま
あはゆらげふべし。よしうはゆらげふべし。

まはゆらげふべし。日まきてましうはゆらげふべし。日まきてま
とまきべし。今まかり教ひして御返のり。おのが方おもはしむ
まははらふまじいありむ。

申あしひあしう。まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
後もいできぬ。日まきてましうはゆらげふべし。日まきてま
あはゆらげふべし。

あまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
後もいできぬ。日まきてましうはゆらげふべし。日まきてま
あはゆらげふべし。

ころえぬまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
氏まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

はわーやうーなるん。日まきてましうはゆらげふべし。日まきてま
ふつうなる。日まきてましうはゆらげふべし。日まきてま
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
いしうまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

源氏を頼むへにまゝなりおどきしをねつうしかくをとり。好色風
旅といつてはまゝなり。

かみあべにやえと。日 兼おりの中おりのきでせめてもなほいし。

あつりしき一しの。日 源氏よりまをりしつゆきてもつるは

いれいみしきまふありし。元祿のまのまききあり。

ほふ源氏をおとすつらわしきつゆきまべしつらうまらうおどき

おんふまふおどきつらう。日十八のひ。おんふまふおどきつらう

へくまら。依りまふてあつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらう

やえおどきおどきつらう。日 源氏をのせおどきつらうつらうつらうつらう

日一とあつせきつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

ておどきつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

人おどきつらうつらう。日 一説とつらうつらうつらうつらう

まどおどきつらう。日 人おどきつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

つらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

おどきつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

ほどきつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらう

おどきつらうつらう

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

まがしひまゝに 十一のひく 細流の説よりうたなり。

いそぎらゝものハ 吉のひく 花宴をふこびるゝぬふらゝものうねるを
ふ月東いいで新道なるものハ紫式部日記の音もゆゑものり
あどつりゝわゝ減合をいふものハとものりと一つりて
いゝものうち一言ハ家一様なるべしとていづとていづとて
あふものうねる方とていづとていづとていづとていづとて
らせしていづとていづとていづとていづとていづとて
ま車をぞ見まゝに 日 かくはあまん後ぞさう海しといつとてはど
格の洞におろくたふおぞりどねまはあききしねまふねひてま
のうねをたふまゝなるうといつとていづとていづとていづとて
もるがうらゝかゝび一本おぞりどねまはあききしねまふねひてま

このまゝおもしろい 日 夕暮し

をうらまはかりうらさく 日 け下ふをもちうらさく

なまじり人のうら ナまじり 人なまじりなる者いふもなまじり

くえさるる物おかく歩りかて抱きぬきぬきをこころんハ

こころんハ こころん ほんのまじり人こころんハ

まぶがこおり

人のまじりいしうらまゝ ナまじり うらまゝくこハ

おなまじりなるこま まじり さまいしうらまゝくこハ

いかりハあゝいほほまがたり

ままじりへうらまゝ まじり かくまてよりおくまびらう

いれ小ぬりぬひあゝいほまがたり

まぶまゝ ナまじり 或は宿業あてこころん

ゆらぎ宿縁なるべし まじり ぬんぬんまじり

いしうらまゝ まじり ぬんぬん

いしうらまゝ まじり 備はふそのまじり

まじり まじり 言わぬまじり まじり 備はふ

まじり まじり 又いしうらまゝ まじり 備はふ

お書は假名あて まじり 備はふ

おの仲より ナまじり 備はふ

まじり まじり 備はふ

信すむまじまじ女もあひやましくい一本女もつらぞまじまじ
つさよお月ふといへば女もやましくぬといふべし

まじまじやうねるうりまじまじ 日 信ふ父の義ふまじまじはうねるぞ

あふのんむらゝ 正せいのひ 神二句ハ原氏忠のいふねんまじまじつら
てゆきまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

細流ふ心の流る月まじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

まじまじ 日 何梅ふ経営とつらまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

んと陰陽をあんやうといふねん敬命とあるハむがてし

ちりまてぬ 日 いふまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

うち何をぞ 日 うち何をぞおのぞのありまじまじまじまじまじまじまじ

ふきねがえ 日 ねがハ長し申おつらまじまじまじまじまじまじまじ

いとまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

つらつらまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

まじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

ねんつらまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

ぞまじまじまじ

べちねん 日 何梅ふ別お建する屋に別納おてお答おこねるれまじまじ

おねん小寝敷ことつら細流り雑合ことつらまじまじ

まじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

まじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじまじ

と見えぬが、あゝさうか逆^{サカ}ひてかくさうう減^ヘつあはしげとどひ
今^{イマ}は昔^{ムカシ}よりとよくつとこし。ゆゑふ弄^{ウツ}た細^コ流^リをのほち此^{ココ}さま
ゆゑて先^マありとえしはさう先^マぞといふては、まづかゝゆの句
まばをてあゝげうかふまづかゝかゝつとさうおし但^{シカ}し又^{マタ}の義^ギと
て、ゆゑさうと時^{トキ}ふえしは、おの敷^シりては、おきぞうとつと、は、さう
より、ゆゑさうれおしとておなづりか先^マありおのゝとえしは、さう
なり、今^{イマ}えまゝありなづりかづりかづりかづりかづりかづりかづりかづりか
あつりといふおのべし。おしとてなづりかづりかづりかづりかづりかづりか
と、何^{ナニ}の用^{ヨウ}とおきほし。

なまふうちさき 曰^{イハレ}はなまふち源^{ゲン}氏^シのちかふなまふちとさう先^マとよと

あはれやうふとのこまゝおどまじりしり。

おどりたりおりあはるは有^{アル}なまふち 其^{ソノ}のち 道^{ミチ}は源^{ゲン}氏^シをみづり

は、ゆゑのこまゝしりてゆゑしは、おのまゝなまふち、後^{ノチ}お流^リを加^カへるなまふち。

何^{ナニ}もななくさ 其^{ソノ}のち 後^{ノチ}もふなまふちをさうあはるなまふちもなまふち

むしを、つとておしとておしとておしとておしとておしとておしとておしとて

あゝげ、先^マやまをまゝおしとておしとておしとておしとておしとておしとて

し、まゝおしとておしとておしとておしとておしとておしとておしとて

し、まゝおしとておしとておしとておしとておしとておしとておしとて

あゝおしとておしとておしとておしとておしとておしとておしとて

おしとておしとておしとておしとておしとておしとておしとて

さういふ 廿二のひ 倍きふさうりつめても、なんがらつてもとつとつと曰ふ
 なり、さういふと曰ふ、必し上ぬうかすおほくてもりつおほし
 ち道をもつてのものを 廿三のひ 此、さむといつおほくは、おほくは、おほくは、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿四のひ ち道をもつて、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿五のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿六のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿七のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿八のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿九のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 三十のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、

けふうちとて、けふうちとて、 廿一のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿二のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿三のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿四のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿五のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿六のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿七のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿八のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 廿九のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、 三十のひ 或、おつどの、おつどの、
 おつどの、おつどの、おつどの、

きてそのまゝおてつゝまゝに終つてきて世をうつゝといふまゝ
ふ着るにちつゝは死骸より浦川へ終てゑまや
うおてつゝまゝに。ほおまが衣をきせ終ひーがとつゝのち
うーといひまゝ終つゝおうねまゝ又或お衣をまひおり
つゝしてゑ終ひまゝといつゝもまゝなりまゝをうちうーといふ
ぞういんし。

片とむわじ 日 終まおけ地をまゝのまゝといふまゝに。

まゝまなびまゝや 日 終まおつゝがまゝに。

まゝまおつゝ終ひまゝ 日 一説とつゝ方まゝに。まゝまゝ

くまゝがり終へく終るまゝに。

まゝりまゝに 日 けつろ病のいのり終ま祭終といふまゝに
まゝの陰陽表終まゝまゝに。

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

まゝまゝに終へ 日 終まに終まおつゝまゝに終まに

おのゝきおまゝ人よおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの

おのゝきおまゝ人よおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの
うらやまおまゝおろゆるぞ 日 海海流るる後々おまゝの

きてゆく 曰 雀をみるゆんとしてし

あつひちやわどよ 曰 わどはんのわどし。事たりてつははらぶが有り。

かんざり 曰 髪はさうざぬとつふてあて。本枝のさうさるま

を枝ぶりとつひ目の物をさうしてるちすはやはらこぶりねむし

つらむらひしうまばこまハ額の際より頂イタキの方へ髪イタキの生イタキのわり

させる所のまぬまつかえし。髪イタキのさげしつふり。枝イタキのさげしつら

ろをへるりげねむくおまへ。皆ねし。あつひち人イタキをさうが并イタキとん

ねらさるわく。そのうまね女の髪イタキを。并イタキさせしこいなきお考へこ

づひらうらさうづ 強イタキさるはあらし。

さびらふうねり 十イタキねむし さるしつらまどきさうふらねとねくおがえ

まがあしきねり。

ぬしをふるりて 曰 やハあえおまをて。目つきのまきさうし。後家

あましーそくしつふさし。

又わらわとね 曰 かねまふらうらま。上りあてね二人とまて。かね

まがさるらげぬるあてねし。上おまへ。又わらわとつらま。

いま一人のあたまし。又つらま。さへけし。かゝるあてねの又よまると

つらま。まきさうらま。かねまハ既あまてゆく。つらま。さうあわ

らうらうらま。さや。

まて色いさうらうらま 十イタキのひら けさる色ハ倍まねまて色のさう。雅

後し。あつひちつらま。

と申すは、いふ事なれども。

むつゝの日の事。曰く、國をやりて、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

といぬは、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども、いふ事なれども。

あきづりおき〜 日 さきなまといまはさかして又布の現ありておきとま
おき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかり〜おき〜 日 借はし〜 細流〜

いかり 日 借はし〜 おき〜しきぬ

いかりのごとくおき〜 日 借はし〜 二人まで 今帰ハ五今

帰〜しきぬおき〜 今帰〜しきぬおき〜しきぬ

いかり 今帰一人がおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬおき〜しきぬ

いかりおき〜しきぬおき〜しきぬ

〇五十五
 〇五十六

〇五十五
 〇五十六

